

平成28年度 指導方法等の改善計画について (国語)

廿日市市立宮園小学校

昨年度の課題と具体的に取り組んだ事項

【昨年度の課題】

- 辞書を利用して文章中の語句の意味を調べる際、その文章に合う言葉の意味を選択すること課題がある。
- 取材した内容を書く際、書きたいことを整理して書き表したり、作品の叙述を引用して理由を書いたりすることができない等目的や必要に応じて整理しながら理由を挙げて書く力が不十分である。

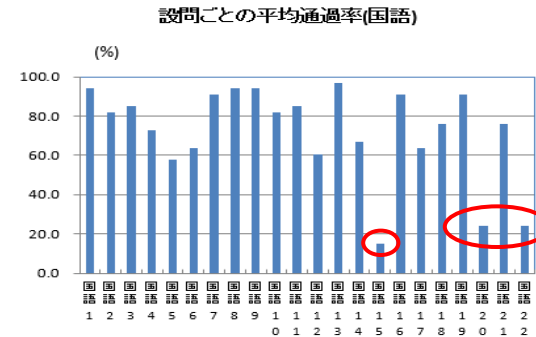
【取り組んだ事項】

- 常時国語辞典を使い習慣化させる。調べたら再度文章を振り返らせ、文脈に合う意味かどうか確認させる。
- 書く際には、根拠となる文や引用文を入れたり、「～ので」「～から」という言葉を意識させたりする。

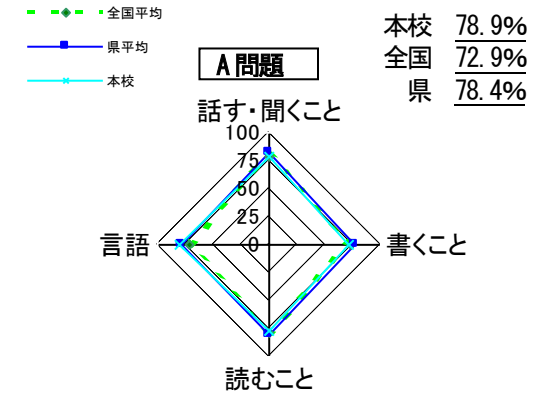
「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率			
	教科全体	タイプI	タイプII
本校	72.0%	76.9%	41.4%
県	63.7%	68.0%	36.7%

全国学力・学習状況調査 本年度正答率		
	A問題	B問題
本校	78.9%	53.9%
全国	72.9%	57.8%
県	78.4%	60.5%

「基礎・基本」定着状況調査結果から



全国学力・学習状況調査結果から



重点課題 ◎「基礎・基本」定着状況調査 ◇全国学力・学習状況調査

- ◎「読むこと」に関する中でも、「中心となる語や文の把握」の通過率が15.2%と低かった。文を読んで把握する際に、その部分だけを読んで解答している。全体を把握し、そこから関連のあるキーワードを使いながらまとめ、読む力が必要である。
- ◎◇活用問題(「◎読むこと・書くこと」「◇国語B」)の平均通過率が低い(◎41.4% ◇53.9%)。特に、複数の資料を読み解き、その中から目的や意図に応じて必要な情報を取り出したうえで、それらを関連付けて論理的に説明する力に課題がある。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

- ◎説明文の学習では、段落相互の関係(問題提示・答えとなる部分・まとめ等)を考えながら読むように促し、全体の構成を把握するよう意識させる。その際には、文末の表現や接続語に着目させたり、キーワードとなる言葉に線を引かせたりするなど具体的なポイントを指導する。また、それらのキーワードを使って、文字数以内に要旨をまとめる活動を行い、中心となる語や文を把握する力をつける。
- ◎◇書く活動では、自分が何を伝えたいのかを明確にしたうえで、資料の見直しをさせ、見出し・手がかりとなる言葉等をつけたり、印をつけさせたりする等して、自分が必要な情報を取り出せるようにする。また、書いた文章は読み返させ、自分の伝えたいことが伝わるか常に目的に立ち返らせる。

来年度の目標値

- 「読むこと」領域の中心となる語や文の把握について問う問題の平均通過率を30%以上にする。
- 「読むこと・書くこと」領域の平均通過率を55%以上にする。

中間検証①(H28.12)

中間検証②(H29.2~3)

最終検証(H29.8)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法	対象	成果指標(方法)	到達目標値	実施後数値	進捗状況・改善方策	成果指標(方法)	到達目標値	実施後数値	進捗状況・改善方策	成果指標(方法)	到達目標値	実施後数値
段落相互の関係を考えながら読むように促す。文末表現や接続語等に着目させ、全体の構成を把握させたり、要旨をまとめる活動を行ったりする。	全学年	中心となる語や文の把握を問う過去問題の平均通過率(4~6学年)	20%			中心となる語や文の把握を問う過去問題の平均通過率(4~6学年)	25%			「基礎・基本」定着状況調査の中心となる語や文の把握を問う問題の平均通過率	30%	
自分が何を伝えたいのかを明確にさせ、見出しや手がかりとなる言葉等をもとに、自分が必要な情報を取り出せるようにする。自分の伝えたいことが伝わるか文を読み返させ、常に目的に立ち返らせる。	4~6学年	過去の「基礎・基本」定着状況調査の「読むこと・書くこと」の問題で平均通過率(4~6学年)	45%			過去の「基礎・基本」定着状況調査の「読むこと・書くこと」の問題で平均通過率(4~6学年)	50%			「基礎・基本」定着状況調査の「読むこと・書くこと」問題での平均通過率	55%	

平成28年度 指導方法等の改善計画について〔算数〕

廿日市市立宮園小学校

昨年度の課題と具体的に取り組んだ事項

【昨年度の課題】

- 多くの情報の中から必要な情報を整理し、筋道を立てて考えることができない。
- 問題を解いた後、筋道を立てて答えを述べたり、言葉があるいは式で解答したりしている。
- はよそを予想して考える際、理由と言葉と数を使って表すことができない。

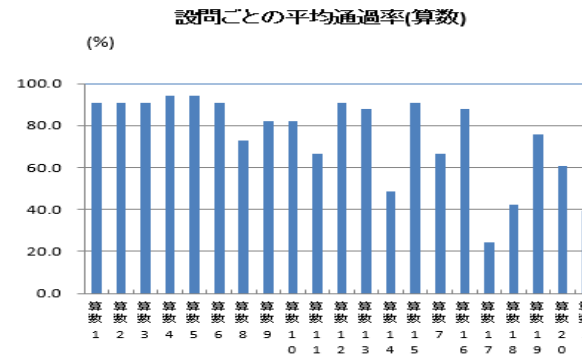
【取り組んだ事項】

- 問題解決の際に、①必要な情報を見つけたり、思考の過程を絵や図で表したりさせる。②見通しを持たせ、自力解決の時間を確保し、自分の考えをノートに書かせる。③「マップだ！」で説明させる。④提示物を作成する。
- 自分の考えを説明する場面において、①問題解決の過程を式と言葉両方を使ってノートに書かせる。②説明例を板書する。③ノートのおよび例を掲示する。

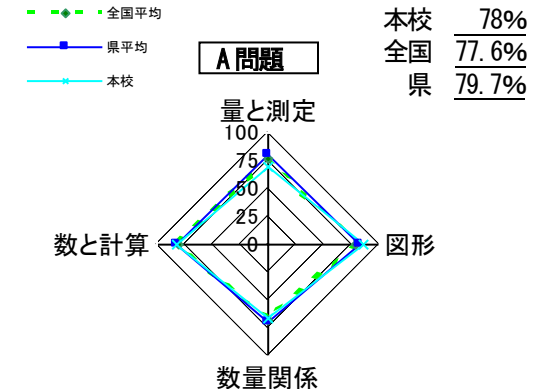
「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率			
	教科全体	タイプI	タイプII
本校	74.7%	83%	48.5%
県	69.4%	74.9%	52.0%

全国学力・学習状況調査 本年度正答率		
	A問題	B問題
本校	78.0%	48.9%
全国	77.6%	47.2%
県	79.7%	49.5%

「基礎・基本」定着状況調査結果から



全国学力・学習状況調査結果から



重点課題 ◎「基礎・基本」定着状況調査 ◇全国学力・学習状況調査

- ◎ タイプI (83%) に比べ、タイプII (48.5%) の通過率が低い。硬貨の種類と枚数を比較し、一方の支払いのほうがおつりの枚数が少なくなる理由を言葉と数を用いて説明する問題で、用いた硬貨の種類と枚数を根拠にし、問題文に示された少なくする前提を踏まえずに単純におつりの金額だけを解答している。(18.2%)
- ◎◇問題文、グラフに示された事象や条件から単位量を求めることができたり、結果の大小比較をすることができたり、筋道立てて説明することができていない (◎24.2%, ◇66.7%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

- ◎ 自分の考えを説明する場面では、①問題を解決する過程を言葉と数両方を使ってノートに記述させたうえで発表させる。②筋道を立てて説明できている説明例を必ず板書し、自分の説明の足りない表現を付け加えたり、修正したりする活動を取り入れる。また、③ノートのおよび例を掲示するなど考え方や解き方の基本型をしっかりと定着させる。
- ◎◇低学年のときから①測定ができるようになってきたり、長さや体積を単位や数字を用いて表したり、時間、時刻や面積、角度を単位と測定の意味を理解しながら表せるように定着させる。4年生以降では、②数直線を用いて数の大小比較をさせたり説明させたりする。③表やグラフを用いて全体の大きさに対する部分の大きさを表す割合の意味を説明させる。④単元前には既習事項の復習を行ったり、パワーアップタイムを利用したりするなど繰り返し学習させる。

来年度の目標値

○タイプIIの平均通過率を県平均より5%以上上回るようにする。

○問題文、グラフに示された事象や条件から単位量を求める問題で、平均通過率を40%以上にする。

中間検証①(H28.12)

中間検証②(H29.2~3)

最終検証(H29.8)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法	対象	成果指標 (方法)	到達目標値	実施後数値	進捗状況・改善方策	成果指標 (方法)	到達目標値	実施後数値	進捗状況・改善方策	成果指標 (方法)	到達目標値	実施後数値
自分の考えを説明する場面では、①問題解決の過程を式と言葉両方を使ってノートに書かせる。②説明例を板書する。③ノートのおよび例を掲示する。	全学年	過去の「基礎・基本」定着状況調査のタイプIIの問題の平均通過率	50%以上			過去の「基礎・基本」定着状況調査のタイプIIの問題の平均通過率	55%以上			「基礎・基本」定着状況調査のタイプIIの問題の県平均通過率	55%以上	
量の大きさの感覚を豊かにするために、数直線・表・グラフを用いて数の大小比較をさせたり、差を求めたり系統的な指導をする。	全学年	過去の「基礎・基本」定着状況調査のタイプIIの「目的に応じた計算結果の読み取りに関する平均通過率	30%以上			過去の「基礎・基本」定着状況調査のタイプIIの「目的に応じた計算結果の読み取りに関する平均通過率	35%以上			基礎・基本」定着状況調査のタイプIIの「目的に応じた計算結果の読み取りに関する平均通過率	40%以上	

平成28年度 指導方法等の改善計画について〔理科〕

廿日市市立宮園小学校

昨年度の課題と具体的に取り組んだ事項

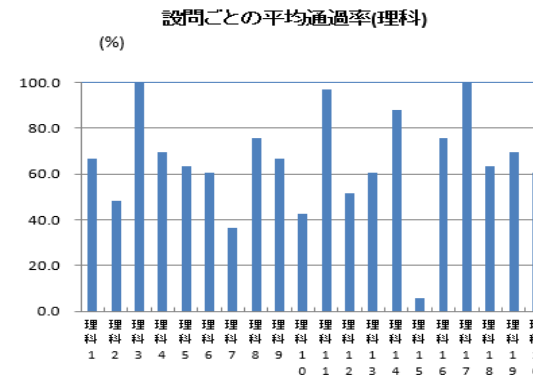
【昨年度の課題】

- 電池・回路・直列つなぎと並列つなぎなど電気に関する学習の通過率が低い。
 - 実験の結果についてその要因や根拠を考察し、科学的な用語や器具の名前を用いて文章で順序立てて正しく説明することが出来ない。
- 【取り組んだ事項】
- 実感が伴う実験をし、単元終了後も繰り返し復習を行った。
 - 予想に照らして整理し、考察する学習過程を大切に授業を行った。

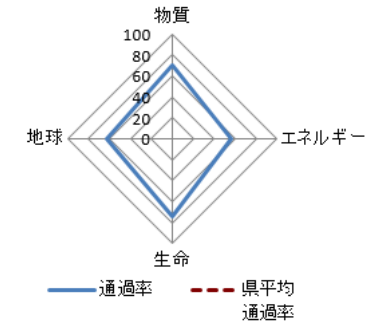
「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率			
	教科全体	タイプI	タイプII
本校	65.2%	75.1%	46.8%
県	60.6%	68.1%	46.7%

全国学力・学習状況調査 本年度正答率	
本校	%
全国	%
県	%

「基礎・基本」定着状況調査結果から



領域別平均通過率(理科)



重点課題 ◎「基礎・基本」定着状況調査 ◇全国学力・学習状況調査

- ◎「エネルギー」領域における複合的な設問の通過率が低い。
(物質の磁石と電気に対する性質 36.4%)
- ◎ 太陽と地面の様子との関係について考察し、それらを科学的な用語を用いながら文章で説明することが出来ない。
(太陽の動きと影の関係 6.1%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)

- ◎「エネルギー」領域の学習において、複合問題を解くための基本的な知識・理解の定着を図るために、実験して分かったことを自分の言葉でまとめさせ、全体で交流する。単元を終えてもプリントなどを用いて復習を継続的に行う。
- ◎ 観察、実験において結果を表やグラフに整理し、予想や仮説と関係付けながら考察を言語化し、表現することを重視した授業を行い、ノート指導を充実させる。

来年度の目標値

○「エネルギー」領域タイプIIの平均通過率を県平均5%以上上回る。○「基礎基本」定着状況調査で記述問題の平均通過率を5%以上上回る。

中間検証①(H28.12)

中間検証②(H29.2~3)

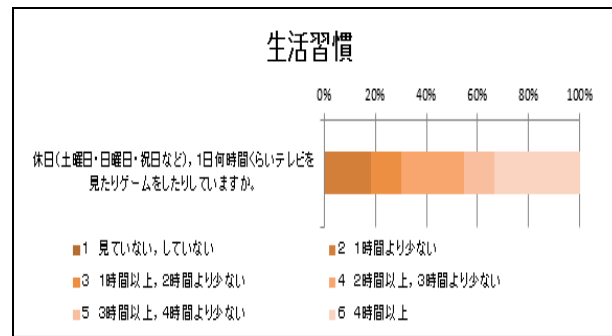
最終検証(H29.8)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法	対象	成果指標(方法)	到達目標値	実施後数値	進捗状況・改善方策	成果指標(方法)	到達目標値	実施後数値	進捗状況・改善方策	成果指標(方法)	到達目標値	実施後数値
「エネルギー」領域の学習において、複合問題を解くための基本的な知識・理解の定着を図るために、実験して分かったことを自分の言葉でまとめさせ、全体で交流する。単元を終えてもプリントなどを用いて復習を継続的に行う。	3~6学年	過去の「基礎・基本」定着状況調査の電気・磁石に関する問題の平均通過率	40%以上			過去の「基礎・基本」定着状況調査の電気・磁石に関する問題の平均通過率	45%以上			「基礎・基本」定着状況調査の「エネルギー」領域タイプIIの平均通過率	50%以上	
観察、実験において結果を表やグラフに整理し、予想や仮説と関係付けながら考察を言語化し、表現することを重視した授業を行い、ノート指導を充実させる。	3~6学年	過去の「基礎・基本」定着状況調査の記述問題の平均通過率	20%以上			過去の「基礎・基本」定着状況調査の記述問題の平均通過率	25%以上			「基礎・基本」定着状況調査の記述問題の平均通過率	30%以上	

2 質問紙調査（「基礎・基本」定着状況調査：児童質問紙調査）（全国学力・学習状況調査：児童質問紙調査）

(1) 生活・学習

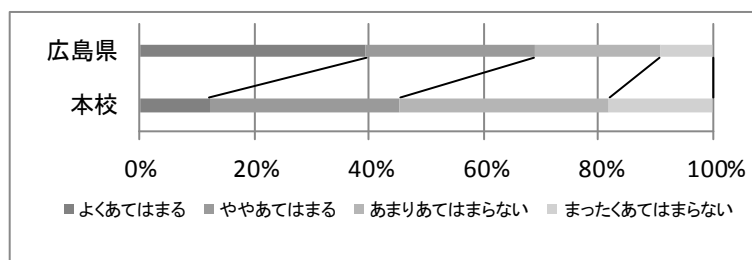
ふだん（月～金曜日）、家では、1日何時間ぐらい勉強していますか。（塾や家庭教師との学習は、除きます。）



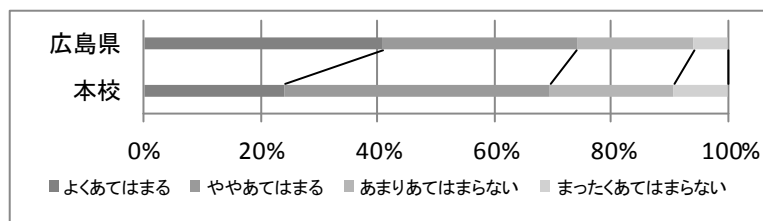
	児童の回答についての課題（現状値）	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
基礎・基本	ふだん（月～金曜日）、1日の家庭学習時間（塾、家庭教師は除く）が1時間以上である児童の割合は、60.6%である。平均（53.7%）は上回っているが、学校の目標値よりも低い。	本校の家庭学習時間は、低学年20分、中学年40分、高学年60分をめやすにしている。「家庭学習がんばり週間」を設け、宿題が早く終わった児童は、予習・復習・自主勉強等にも取り組むように指導する。	全学年	家庭学習が1時間以上の児童90%（5・6年）	児童アンケート	2月		
全国	ふだん（月～金曜日）、1日あたり2時間以上テレビ視聴やゲームをする割合が22%で県・全国平均に比べ6ポイント以上高い。（メール、インターネット含む）	平日は家庭学習確保のためにも普段からノーメディアの奨励をする。家庭学習がんばり週間にはノーメディアチェックも行い、効果的に実践できるように取り組む。	全学年	テレビ・ゲーム・インターネット視聴が2時間未満の児童60%	振り返りカード 児童アンケート	2月		

(2) 教科

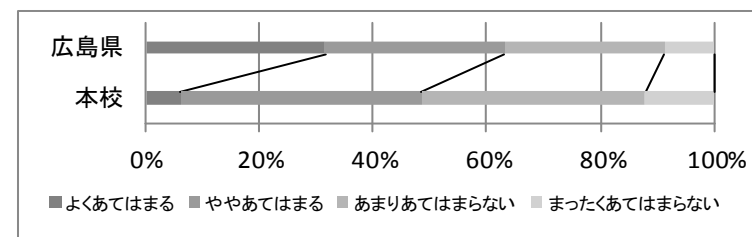
国語の授業では、分からない言葉や漢字は、辞書を使って調べています。



算数の授業では、とき方や考え方を絵や図などに表して考えています。



理科の授業では、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしています。



	児童の回答についての課題（現状値）	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
国語	基礎・基本	分からない言葉や漢字を辞書を使って調べている児童の割合が45.5%で、県平均より23.4ポイント低い。	3年生以上	70%以上	児童アンケート	2月		
	全国	意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫している児童の割合が55.5%で、全国平均より6.8ポイント低い。	全学年	70%以上	児童アンケート	2月		
算数	基礎・基本	とき方や考え方を絵や図などに表して考えている児童の割合が69.7%で、県平均より4.5ポイント低い。	全学年	80%以上	児童アンケート	2月		
	全国	学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えている児童の割合が55.6%で、全国平均より11.8ポイント低い。	全学年	70%以上	児童アンケート	2月		
理科	基礎・基本	自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしている児童の割合が48.5%で、県平均より14.6ポイント低い。	3年生以上	70%以上	児童アンケート	2月		